

®
NGO こめ（光命）構想「未来づくりに参加してみませんか！」の説明

2018年9月16日（平成30年9月16日）

楽しく循環型社会実験「未来づくり」を始めましょう。
「未来づくり（循環型社会実験）」に参加しながら、
住みよい地域や暮らし、そして仕組みを皆で考えたら、
明るい未来が早く実現します。

【1】楽しく始める為に、

農山村、田舎、農林水産業、環境保全産業、教育、土木建設業、建築士等の、
高額な収入になる仕事をつくります。そのことで新しい捉え方のエコ産業が興ります。

○山の環境保全整備を行い出てくる不要な木から、新しい捉え方のエネルギーや建材を
作る「新素材」をつくり販売します。

○壊れてしまった自然環境を取り戻す仕事・産業「生態系を取り戻す仕事・産業」をつく
ります。

可能であれば、「国家プロジェクト」としての取り組みになることが望ましいと考え、
日本は法治国家ですから、一住民としての立ち位置から、懸命に努めています。
しかし、残念ながら「国家プロジェクト」予算が叶わない場合でも、「国家プロジェクト」
としての位置づけは崩さず、【2】の支援金を導入して始めたいと考えています。

【2】で説明しますが、

「国家プロジェクト」と伝えられる始まりが、今年の10月中であれば幸いです。

【2】経済政策と格差を埋める為に、

支援金（寄付金）を募ります。

支援金については、この説明の最後に記載してあります。

「経済政策」

11年周期ぐらいに起きる太陽の活動の影響で、戦争・経済破綻・災害周期も起こるとい
う説があります。

・昨日（9月15日）は、10年前にリーマンショックが起きた日でした。その前兆は、1年前
に始まっていました。そのリーマンショック後、アメリカはデフォルト（責務不履行）直前を何度
も繰り返していました。ついにオバマ大統領の時、2013年10月に、世界経済に甚大な影響
を及ぼす米国のデフォルト（責務不履行）直前最大の危機騒ぎがあり、16日間米政府機関の多
くの職員が自宅待機になりました。よく持ち堪えたと当時感心し、次のデフォルトが、アメリカ
発の世界同時金融大暴落を引き起こす可能性があることを予測しました。

・ウィール街の大暴落（1929年）は、世界恐慌のきっかけになりました。アメリカで起きた

株価の大暴落です。1929年10月24日に最初の暴落が始まり、壊滅的な下落は10月28日（月）、29日（火）に起こり、株価大暴落は1ヶ月続き、世界恐慌のきっかけになりました。

・そして1930年代のニューディール政策でした。失業者の大量雇用と公共施設建設や公共事業を全米に広げ、1934年以後には経済が回復に転じたと言われています。

今年はアメリカ議会選挙（アメリカ大統領中間選挙とも言われる）が11月6日にあります。投資家は、注視しています。

現在はネット社会ですから、何かあれば瞬時に世界中に情報が配信され、株価大暴落になる可能性があります。投資家が危険回避する為に株を買い戻したら、民間コンサルタントが考えた「国家プロジェクト」に寄付投資に即座に動いたら、アメリカ発で起きる可能性の高い世界同時金融大暴落は、ソフトランディングさせることができるだろうと考え、NGO こめ（光命）構想の内容も進め方もその対策も含め考えてあります。

つまり、起きて欲しくはありませんが、グリーンニューディール政策のような構想を持つNGO こめ（光命）に寄付投資すると、経済危機も回避でき、楽しく明るい未来づくりができるようにと考えました。残念ながら、何か起きた場合、経済のハードランディングは回避できますが、環境を壊し続けた産業構造を、一気にエコ産業構造に、この時に建て直しが迫られる可能性は高いと予測して、段取りを考えた構想にもしてあります。

支援金の使い道は、

- これまでの環境を壊し続けた産業構造を、穏やかに転換させます。
この構想でつくる「新素材」があれば、製品化する技術は既にあります。
既存原材料を換えるだけです。「既存原材料」と「新素材」を、同等の価格で販売することで、【1】の仕事、産業になります。新しい捉え方のエコエネルギーの普及拡大も急務です。
この構想でできる「新素材」を、既存産業に導入することで発生する経費や、「新素材」購入費等に補助金のような支援を行い、安価なエコエネルギー素材として普及促進し、他のリノベーションや産業の転換を穏やかに行えるようにします。雇用と公共事業を経済回復させる規模に推進させます。
- 福祉、医療、教育、地方、他等、これまで予算不足、政策不足であったことに優先的に、政策も加味して使用します。現在の財源不足を補います。（この課題は、循環型社会実験の政策として、連携させることで課題を魅力に切り換えます。）
- 恐縮ですが、これまでの構想開発の為に負債支払いに使用します。
（コンサルタント業務ですので、構想が立ち上がりましたら、広く社会に還元致します。）

明るい未来づくりは、みなさまの支援金で始まります。ご支援よろしくお願ひします。

支援金については、この説明の最後に記載してあります。

®
NGO こめ（光命）構想の説明を続けます。

**【再び同じ過ちを繰り返さない為に、私たちが理解しなければならないこと】
それが、「未来づくりビジョン」です。**

今は、お金がないと生きていけない社会なので、
お金にならないことは、どんなに正しくても続けにくい、やらない社会です。
この構想は、これまでお金にならなかった生態系を取り戻す【作業】を、
お金になる【仕事や産業に転換】させて、生態系を取り戻す構想です。

そして、**【逆転の発想で、日本が世界のモデルになる構想です。】**
災害が多発している日本が、山を治めることや災害に強くなることで、
世界のモデルになり、世界を平和で持続可能な循環型社会に導く構想です。

NGO こめ（光命）構想は、**【防災】**です。
土砂崩れを防ぐ構想から始まります。

かつて豪雨や地震で土砂崩れ災害を経験した時、
「山の木が、お金になったら、土砂崩れは防げるのに」と、気付きました。

しかし、お金の成るからと山の木を乱伐されたら、更に土砂崩れし易い山になります。
お金の成るからと、お金のことしか考えない人が山を買い占めたら、
水源を抑えられ、水源を当てにして暮らしていた人々は、支配されてしまいます。

そこで考えたのが、**【未来づくりビジョン】**です。
人類が、未来永劫、地球に暮らし続けられるように考えたビジョンです。
このビジョンを念頭において、皆が心で考え行動できたら、
素晴らしい未来になります。
地球環境や地球に生きとし生きるものが、自然の摂理そのものの未来になります。

【自然の摂理そのもの】とは、
【生態系のバランスが取れていること】、
【世界が平和で持続可能な循環型社会になること】だと考えてみました。

今、地球環境の生態系バランスが崩れてしまいました。
これまでの私たちの暮らしも社会も、生態系のバランスを崩すものでした。
直ちに生態系を取り戻す為の行動を始めたなら、明るい未来をつくることができます。

～幼子の笑顔を未来につなげたい～

この想いを込めて、[®]NGO こめ（光命）構想を作りました。

【呼び水事業】:今、生まれれば2019年10月22日に、竣工させることができます。

短期間で成就させる為に、構想立案者である私が暮らしている「十日町市」に、
「資金源」となる「新素材」をつくる工場を造り稼働させます。

工場建設と同時に、十日町市圏域（雪国越後：津南町、長野県栄村、柏崎市高柳町を含む）を、日本初（世界初）の「未来づくり（循環型社会実験）モデル地域」として整備します。

過去の私の経験から、地域が抱えている課題やインフラ整備、特に工場周辺地域の整備を整えてから、モデルとしてのお披露目をしたいと考えています。

その工場を「木質資源新素材転換センター」とネーミングしました。

工場竣工は、2019年10月22日を予定しています。

工場を稼働させながら、山の整備と工場に原材料・燃料を運ぶ流れや、工場で出来た「新素材」の販売先のイノベーション、リノベーションをご指導し、産業や仕事としてのシステムを構築します。交通問題も、地域住民のみなさまの暮らしの妨げにならないように配慮します。

工場建設、周辺整備の間、十日町市圏域のみなさまからは、「大地の芸術祭」等で評価された農山村の田舎の暮らしや、かつて循環型社会だった日本の記憶の残る伝統的衣食住を、自信と誇りを持って取戻し、さらに磨きを掛けていただきたいと考えています。

更に、2020年東京オリンピックの暑さ対策も、工場の一次処理設備を利用して考えてあります。新しい物流についてもアイデアがありますので、普及させたいと考えています。

そして、2020年東京オリンピックで、「未来づくり（循環型社会実験）モデル」として、正式にお披露目します。

十日町市圏域が、「未来づくり（循環型社会）モデル」として、日本中、世界中にPRされ、楽しく普及拡大します。

「生態系を取り戻す資金源」を生みながら、「生態系を取り戻す仕事や産業」を生み続け普及拡大させ、継続、持続の仕組みをつくり続け、

2030年までに、世界が平和で持続可能な循環型社会に成るように努めます。
(コンサルタント業務ですので、立ち上がりましたら、広く社会に還元致します。)

【土砂崩れは、予防することができます。】

地震や豪雨・台風を止めることは難しいことですが、土砂崩れは予防できます。

土砂崩れを防ぐ為には、木が混みいつている山の木と木の間の間隔をあける主伐や間伐や、山の健康な土（腐葉土）づくりが必要です。健康な山は、風は木々の間を流れ、水は水の道の流れ、必要量の太陽光が地面に降りそそぎ、木々の間の動物たちの糞尿や死骸と落ち葉等が共に発酵し腐葉土になり、地力と保水力のある大地が保たれています。そして主伐や間伐されて木と木の間の間隔をあけると、しっかりと木の根は張りめぐり、土砂崩れを防ぐ、土留（どどめ）の効果を発揮するようになります。

主伐された良い木は、建築材などに使うことができますが、使い道のない不用材は、これまでごみとして扱われてきました。その「不用材が」、原材料や燃料になり、今以上に高度で科学的なエコエネルギーや、エコ建材をつくる「新素材」になります。

®NGO こめ（光命）構想「未来づくりに参加してみませんか」パンフレット『呼び水事業』の内容説明

山の不用な木が、

1. テレビ、冷蔵庫、パソコン、スマホ、照明、他、個々の家電に、
1年間位使用できる「コイン電池」や「移動式電池」の新素材になる
2. EV 自動車が10万 km 位走行可能な、「移動式電池」の新素材になる
3. 「植物系カーボンナノチューブ」
(アルミニウムの半分の軽さで、鋼鉄の20倍の強度の建材)を作る新素材になる

生態系を取り戻す【資金源】となる「新素材」になります。

「新素材」を作る工場を、十日町市に造り稼働させます。

新素材を販売した収益で、エコビジネス(仕事)をつくり続けることができます。

既に、新しい科学技術は、工場設備としての特許を取得し、構想は著作権を付け、
®「NGO こめ（光命）」で商標登録も済ませてあります。住民説明も13年間行ってきました。
建設地は決めてあります。

今、十日町市に工場を造り始め、十日町市圏域を社会実験モデル地域にすることが決まれば、

- ・ 2019年10月22日、十日町市工場竣工、「循環型社会実験モデル指定」
- ・ 2020東京オリンピックで、「未来づくり（循環型社会）モデル」として世界にPR
- ・ 2030年までに、エコビジネス（生態系を取り戻す仕事・産業）をつくり続け、世界を平和で、持続可能な循環型社会にすることが叶います（立ち上げ終了、業務終了）。
(コンサルタント業務ですので、構想が立ち上がりましたら、広く社会に還元致します。)

明るい未来づくりは、みなさまの支援金で始まります。ご支援よろしくお願ひします。

明るい未来づくりは、みなさまの支援金で始まります。

ご支援よろしくお願ひします。

(コンサルタント業務ですので、構想が立ち上がりましたら、広く社会に還元致します。)

支援金

1口 10,000円から 上限はありません。

支援金のお振込み先

〈郵便振込〉

記号番号 00580-8-83324 こめ
NGO光命

〈銀行振込1〉

十日町農業協同組合 川西支店
口座番号 普通 0008454 こめ
NGO光命

〈銀行振込2〉

新潟県信用組合 川西支店
口座番号 普通 0286147 とみいふじこ こめ
有限会社 富井富士子事務所 (NGO光命)

® NGO こめ(光命) ・ビジネス事業

地域開発コンサルタント会社

有限会社 富井富士子事務所 代表取締役 富井富士子

新潟県十日町市上野甲 997

TEL.025-761-1580 FAX.025-761-1581